

ミクニテンナンショウを上田市で再確認

川上 美保子*・野口 健**・星山 耕一***

サトイモ科テンナンショウ属ミクニテンナンショウ *Arisaema planilaminum* J. Murata は、群馬県多野郡十国峠を基準産地として 1978 年に邑田仁氏によって発表された種で、小県郡真田町（現上田市）の標本も引用されている（邑田 1978）。また、「長野県植物目録」（2017）においては、軽井沢町と佐久市田口の 2 地点のみが記録されている。2018 年、上田市真田町長でミクニテンナンショウを確認したので報告する。

ミクニテンナンショウの偽茎は葉柄よりかなり長く、葉は二個。仏炎苞は緑色で、筒部と同等の舷部は、広卵形であるが、同所的に生育するヤマザトマムシグサやキタマムシグサのようにドーム状にはならず、平らに前曲し真ん中に一本の白筋があり、特に背面からみると良く目立った。口辺部はやや広い襟状であった。花序付属体は淡い緑色を呈し、平滑で筒部口と舷部との間で直立している様子が見られた（図 1）。11 月、再び観察したところ果実は、液果で鮮やかな朱赤色をしており隙間から見える果肉は濃紫色であった。

上田市真田町の生育地は、標高 1000m 前後のフ

サザクラ、ケヤキ、イトマキイタヤ、メグスリノキなどの落葉樹林のやや暗い林床であった。草丈は 120cm 前後。周囲には湿生地を好むウリノキ、ジュウモンジシダ、ミズなどが見られた。

新種としての発表時は上野（群馬県）、武蔵（埼玉県）、信濃（長野県）の三国に分布するとされたが、現在は茨城県、山梨県、愛知県などでも記録されている（邑田ほか 2018）。また星山によって静岡県で確認されている（未発表）。

標本：ミクニテンナンショウ

Arisaema planilaminum J. Murata

上田市真田町長 990m 2018 年 6 月 12 日、
川上美保子、NAC 190251, 190252.

謝辞

本報告に際し、貴重な情報と助言を頂きました長野市の大塚孝一氏に深謝いたします。

また標本収納に際し環境保全研究所の尾関雅章氏のお世話になりました。記してお礼申し上げます。



図 1 ミクニテンナンショウ

* 川上 美保子 〒386-0005 長野県上田市古里 2117

** 野口 健 〒389-0515 長野県東御市常田 17-3

*** 星山 耕一 〒420-0885

静岡県静岡市葵区大岩町 2-10-202

参考文献

- 長野県植物目録編纂委員会(2017)長野県植物目録.
長野県植物目録編纂委員会
- 邑田仁(1978) テンナンショウ属の一新種, 植物
研究雑誌 53(3): 84-86.
- 邑田仁・大野順一・小林禎樹・東馬哲雄(2018)
日本産テンナンショウ図鑑. 285-287. 北隆館,
東京